

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	過疎化と高齢化の進む集落群と買い物・福祉医療等の拠点地域を効果的につなぐ方法	鶴岡
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	300人の集落が終の棲家に…集落全体がデイサービス		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	新潟法律大学校社会創生②		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	6名		
代表者（公開）	近藤 佳乃子		
メンバー（公開）	三島 祥 池亀 航生 柳澤 介胤	田中 集 土屋 温	

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名をCOG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院のCOG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。3.

公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズのCC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽竊があるものなどは公開いたしません）

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したのではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

昭和の日本は、地域行事がたくさん。家族はみんな同じ屋根の下で暮らし、各世帯のつながりも強固だった。しかし、現在の日本では、少子高齢化や、都市一極集中による核家族化により、いわゆる「田舎」に高齢者が置いてきぼりにされ。地域独自の文化や魅力は希薄している。そんな田舎の活性化ためには、昔のような人間どうし、集落全体で支えあう環境を整備が必要と考える。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

『300人の集落が終の棲家に。集落全体がデイサービス』

■ 集落全体がデイサービス

集落全体をデイサービス施設と考え、高齢者の健康や利便性、やりがいを創る。それができれば、集落を終の棲家にする事が可能と考える。買い物という日常のエンターテインメントを家の前で体験できる移動スーパー。店員さんと何気ない会話を楽しむ。さらには、荷物のお届け、郵便物のお届けも店員さんがやってくれ、たまに、街に買い物に連れて行ってくれる。でもそれだけじゃない。集落の畑は子供や障害者がお手伝い。作業を教えるのは高齢者。公民館は学童保育や保育園。さらには障害者デイサービスを併設し、高齢者が保育士や介護士のお手伝い。子供や障害者は集落の高齢者の家にも訪問し、皆で遊んだり話したり。支えあう集落が出来上がり。住み慣れた我が家が、住み慣れた集落がそのままデイサービス施設に早変わり。

■ 事業概要

少子高齢化や核家族化に伴う地方の過疎化、それに対応し地域生活が困難になっていく住民たち。買物に行く手段や病院に行く手段、地域の見守りや普段の生活の不便などに対応する業種の枠にとられない地域生活インフラとしてのデイサービス事業。流通インフラとして「商品を集落民まで届ける」「店舗を集落民の目の前で展開する」「集落民が買物へ行くための交通手段」「病院に行くための交通手配」など。福祉としては通常の「訪問介護サービス業務」「集落の公民館などを利用したデイサービス」など。さらには、集落の賑わいと活性化、住民のやりがい創る目的で「住民参加で集落外から受け入れた子供を預かる保育・学童機能」「住民参加で集落外から受け入れた障害者を預かる障害者デイサービス機能」など。福祉・流通・運輸などの業種を組み合わせたよろず屋機能を持つ。これらの事業運営を専任職員と共に、集落住民が行うことで高齢者のやりがい創ると共に地域の自給力を高める。

福祉

■ 通常の福祉事業

訪問介護サービス業務
デイサービス業務

流通インフラ

■ 流通サービス事業

移動スーパー業務
買物代行業務・宅配業務

やりがい

■ 保育・就労支援事業

保育・学童保育事業
障害者就労支援事業

■ 集落はすべての住民のために、住民は集落のために

デイサービスと聞くと、利用者が施設を訪れ、そこでサービスを受けることを想像する方が多いだろう。本企画では、集落全体をデイサービス施設と考え、住民全員がサービスの利用者であり、提供者である社会の構築を目指す。周りに頼らざるを得ない高齢者や障害者がサービスの担い手になることで、社会から「必要とされる」という幸せを感じてもらう。昔の日本は、地域行事がたくさん。家族はみんな同じ屋根の下で暮らし、多くのイベントを通じて各世帯のつながりも強固だった。しかし、現在の日本では、少子高齢化や、都市一極集中による核家族化により、いわゆる「田舎」に高齢者が置いてきぼりにされ、地域独自の文化や魅力は希薄している。そんな田舎の活性化ためには、昔のような人間どうし、集落全体で支えあう環境を整備が必要と考える。

■ 訪問型スーパーによる生活支援&アミューズメント効果

「スーパーが遠い、持病で外出が困難。」買い物に行きたいけどいけない！と思う人がいる実情。ならば、スーパーを動かそう。移動販売であれば、遠出の心配なく近場で買い物ができる。さらに、販売車は集落全体を巡回。なんと集落到に住むすべての人が利用できてしまう。買い物の出来る場所の確保ではなく、買い物の楽しさと、住民同士の交流の場を提供。普段目にしない商品とのご対面。商品を片手にお隣さんと世間話。移動販売車から始まる「楽しみ」としてのお買い物。人と人の繋がりのきっかけをも提供する。

■ 買い物レクリエーションや病院送迎など旅客運送機能

集落の自治会がバスを手配し通院の手段を提供する。集落全体で実施することですぐに身体の異常に気付き受診することが出来る。体調の急変にも即座に対応し、孤独死や熱中症といった一人暮らしの高齢者が死亡してしまうリスクを軽減。さらに買い物レクリエーション。高齢者も障害者も健常者も関係なくみんなでお買い物。買い物を通じて一緒に過ごし、仲間意識を強固に。ハンディキャップなんて関係なし。みんなで楽しくおしゃべりする中で鶴岡市の新しい魅力や特産物を発見。時代とともに変化する新しいものに触れることで購買意欲を刺激。ちょっとした買い物が地域経済の活性化の第一歩に。

■ 宅配機能と見守り機能

なななんと移動販売車によって、各世帯の見守りと荷物の宅配までできてしまう。販売員さんが、商品販売と荷物の配達、それと同時に住民の健康状態をチェックしてくれる。これで持病を持つ方の不安軽減、急な病の発症のリスク緩和に貢献。これにより誰もが安心して生活することができる環境が構築できる。商品の受け渡し時や、健康チェック時の何気ない会話。短い時間だけど、ちょっとした話題で盛り上がる貴重な時間。荷物だけではなく、人間のぬくもりを提供する。

■ 日本版CCRC 機能(集落の活性化とやりがいつくりのために)

「私って誰かから必要とされているの？」そう思う方は多いだろう。「誰かから必要とされる」という意識は人間が生きていく上での幸せの一つではないだろうか。そこで、年齢や障害の有無、病気の有無を問わず、誰もがともに手を携え地域社会に貢献出来る集落を作る。高齢者は小さい子の子守を行い一緒に遊ぶ。子どもとともに過ごすことで孤独感を解消。自分の役割を発見し、生き生きとした生活を送ることが出来る。また、障害者は、高齢者等のアドバイスによって農業に参加。生きがいの場として農場で過ごす時間は宝物。農作物を生産する事で自分の役割を発見できる。住民全員が一つの家族のように、かけがえのない存在であると感じられる集落を目指す。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞

＜先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

仮説①：昭和の日本の田舎には全世代が必要とされ役割を担う社会があった

仮説②：集落全体がデイサービス施設と考えると幸せな老後が待っている

■ 田舎集落の理想と現実

昭和の鶴岡の田舎の姿。小学校区で公民館が設置され、地域の祭りや運動会など行事がてんこ盛り。夫婦にこども、じいちゃん、ばあちゃんさらにはひいばあちゃんまで、みんなが同じ屋根の下でごちゃませ状態。年をとっても周りに誰かがいて、孫の子守で大忙し。集落で生まれてどこにも行かず、集落の中が終の棲家に、これが、日本の昔の姿。肩を寄り添えあってという感じとは思っただけ、豊かな生活ではなかったとは思っただけ、この生活に幸せがあった。そんな気がする。そんな幸せを捨てた首都圏一極集中化による核家族化。置いてきぼりになって老人たちのみが残る田舎町。急速な経済成長の必要条件としては致し方なかったこととしても、今あるのは一極集中で疲弊し問題が山積みの日本の田舎の集落。首都にこだわるのではなく、地域独自の魅力を最大限に利用するために必要なのは、やはり田舎の集落ではないだろうか。昔のように、人間らしく、集落全体が支えあい家族のようにともに成長していく社会が理想である。

■ 次世代福祉のキーワード

次世代の福祉の形態。ノーマライゼーションを実践する日本型 CCRC と呼ばれる「シェア金沢」や「富山型デイサービス」。高齢者と未就学児、障害者と学生がそれぞれできることを行い支えあう形が高齢者や障害者の生きる力を創る。このような福祉の取り組みは、昭和の世界を令和の現在に人工的に作ったモノという言い方ができるのではないだろうか。誰かから必要とされることが、人が生きるうえで最低必要な幸せ。「必要とされる」それが次世代福祉のキーワード。高齢者、障害者はどうしても自分ひとりではできなくなることが増えてしまう、それによって周りを頼らざるを得ない環境ができてしまう。誰からも頼られないことは、疎外感や不安感を大きくする。ヒトは、ヒトから頼られ必要とされることで生きていけるのではないだろうか。

＜参考にした施設事例＞

シェア金沢: 高齢者、大学生、病気の人、障害のある人、分け隔てなく誰もが、共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街。金沢市郊外の 11,000 坪の敷地に、児童入所施設、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅、食堂、売店、テナント、温泉など多機能を導入し、多世代共生が可能。かつてあった良き地域コミュニティを再生させ、いろんな人とのつながりを大切にしながら、主体性をもって地域社会づくりに参加する。コミュニティ内では、障がいのある方に対する差別はなく、助け合い支えあいをしながら生活している。自然環境に恵まれた中、自身の健康を見直すことや、観光を堪能することなど、様々なことができる。

参考 HP <http://share-kanazawa.com/>

富山型デイサービス:年齢や障害有無に関係なく、誰でも一緒に身近な地域でデイサービスを受けられる場所が「富山型デイサービス」。富山型デイサービスは、富山から全国に発信した、新しい形の福祉のサービス。小規模で家庭的な雰囲気の中で、利用者が自然に過ごせることや、個々の状態に合わせた細かい介護が受けられること、利用者を限定しないため、高齢者が小さな子どもを見守り、障害のある方がスタッフのお手伝いをするなど、当たり前の生活がある。また、徘徊を繰り返していた高齢者が、毎日来る赤ちゃんを見て徐々に落ち着き、会話も自然になるなど、富山デイサービスには、様々な相乗効果を生み出す可能性があり、それぞれの事業所が地域に根ざした利用者 本位のサービスの提供を目指し、個性のある事業所運営に取り組んでいる。

参考 HP <http://www.toyama-kyosei.jp/service/>

とくし丸:スーパーの大型化と郊外化で、近所のスーパーが撤退して、日常の買い物に不自由になっている人たちが増えている。その人たちは「買い物難民」と呼ばれる人たち。とくし丸とは、買い物難民の方に向けた移動スーパー。買い物は、生活の中の楽しみでもある。現物を実際に見たり触ったり、選んだりすることで楽しさを感じてもらい、買い物難民の方を支援している。軽トラックといえども冷蔵庫付きの専用車で、生鮮食品も積み込んだ400品目以上になりついている。また、買い物だけではなくとくし丸のスタッフの人が、「地域の見守り隊」としての役目も果たすことも目指している。とくし丸では、各地域の地方自治体等と「見守り協定」を締結している。見守る対象者は高齢者なので、その市域では重要な「見守り役」として役目を果たしている。

参考 HP <https://www.tokushimaru.jp/>

クロネコヤマト 見守り・買い物支援:高知県大豊町では、町と商工会を連携し、地元商店を活用した「買い物支援＋見守り」を実施。買い物の注文が入ると町内商店から商品を集荷し、その日のうちに届けている。また、配達の際に、健康状態などを確認し、便利で安心できる環境を構築した。町内商店での買い物が増えることで、地域の活性化にもつながる。東京都多摩市では、ヤマトグループが、居住者の暮らしを便利で快適に利用できる「くらしのサポートサービス」を提供。団地内に拠点を置き、一括配送、買い物代行、家事サポートなどを行う。また拠点は居住者が集まるコミュニティの場としても活用している。

参考 HP <https://www.kuronekoyamato.co.jp/ytc/government/case/watch.html>

■最低限で最高の幸せ「必要とされる」

住民にとってかけがえのない集落を崩壊から守るために必要なこと。それは、住民どうしの繋がり意識ではないだろうか。誰かが一方的にサービスを提供、あるいは、受け取るのではなく、住民全員が、各自の役割に応じたサービスを担い、みんなが、受け取れるような社会作りをする。この集落には、年齢の違いや障害の有無など関係ない。住民の全員が「かけがえのない」存在として、「楽しい、嬉しい」と感じる幸せの時間や、協力や協業によって時に訪れる苦難を共有する。住民一人一人が誰かから、あるいは社会から「必要とされている」の感じられる環境をつくることで、集落を守り、発展させるために必要なのである。

■「必要とされる」状態をつくるためのレシピ

日本型 CCRC の成功事例とされるシェア金沢の皆で助け合う仕組み。富山型デイサービスで見ることが出来るノーマライゼーションの実践。買い物難民の救世主とくし丸。宅配という生活に密着したシステムを行う中で買い物代行や見守り代行まで行うクロネコヤマト見守り買い物支援。これらの事例を組み合わせ、福祉事業者と自治会が協力し、よろずやを経営することで、継続可能な仕組みができる。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

■ アイデアを実現する主体**① 全体設計 新潟法律大学校社会啓蒙ゼミ**

昔の日本にはあった集落全体が1つの家族であるような共同体意識を取り戻す。その実現のため、住民全員が集落発展の担い手になれるシステムを構築する。

② サービス運用主体 集落全体

自治会は福祉事業者や地元スーパー、運送業者と連携して各種サービスやイベントを行うための基盤を構築し、各事業を展開する。また、集落外から地域おこし協力隊を募集し、この事業の専任者とする。彼らは、事業の参加のみならず、集落の住民の1人として、集落の発展に寄与する。

③ サービス利用者 集落住民・近隣未就学児と保護者・近隣在住の障害者

年齢の違いや障害の有無を問わず、誰もが参加できる。また、高齢者や障害者にしか担うことが出来ない役割を用意することで、サービスの受け取り手になりがちな彼らにも事業の運営者として、集落の発展に貢献する。

■ アイデアの実現に至るプロセス**フェイズ1 地域おこし協力隊募集**

事業の専任者たる地域おこし協力隊の募集をかける。当初は集落の宅配や買物代行さらには移動スーパーの運営が主な仕事。将来的には、訪問介護やデイサービスまでを網羅した事業運営全般を行う。

フェイズ2 見守り隊の実施

自治会や有志が中心となって各家庭の見守り活動を行う。健康状態のチェックを行うのはもちろん、各世帯を回ることで、移動販売など今後実施する事業のための現地調査を行うことが可能となる。ここで得られたデータをもとに、事業の効率化や、サービス向上を図る。

フェイズ3 買物代行・宅配事業の開始

各世帯の見回りに買物代行と宅配をプラスする。現地を回る事で得られたデータや住民の要望を踏まえ、買物代行や宅配を行う。これらの仕事は事業の専任者である地域おこし協力隊を中心とする。彼らは、宅配業者と連携し、荷物や商品を家まで届ける。注文を受け、商品配達を繰り返して行く過程で、集落の住民の信頼関係を築く、効果も期待できる。

フェイズ4 移動スーパー開店(とくし丸フランチャイズ)

見守りや個人向け宅配、買物代行業が軌道に乗り次第、全住民向け移動スーパーを開店させる。自治会では宅配で得た収益を使い、軽トラを改造した店舗を制作。地域おこし協力隊員が地元スーパーと提携し、主に食品販売を行う。週に複数回の訪問販売を行う中で、住民のリクエストに最大限応えることで、集落全体で「市場」を作り上げる。また、商品の販売だけではなく、買い物を通じた人と人の交流の場にもなるはず。

フェイズ5 地域おこし協力隊募集 Part2

訪問介護やデイサービス事業の専任者たる地域おこし協力隊の募集をかける。子供から高齢者、さらには障害者までをひとところに見る富山型デイサービス。そのサービスをスムーズに行うためのケアマネージャーなど必要な人材をそろえる。

フェイズ6 訪問介護スタート(地元介護施設と提携)

各家庭を訪問する中で発見した介護が必要な方に対して、ケアマネージャーを派遣。ケアマネージャーが作成したケアプランをもとに、利用者に合った訪問介護サービスの提供を行う。サービス提供者は集落住民。自治会が介護の初任者研修費用を負担して、公民館が研修会場。住民による介護サービスの提供を可能に。

フェイズ7 公民館（集落の施設）利用したデイサービス(地元介護施設と提携)

被介護者やその関係者の交流の場として、施設を利用したデイサービスを行う。さらに、近隣の障害者や子供もデイサービスとして受け入れる。この場では、介護サービスの提供だけではなくレクリエーションを行うことで住民間の仲を深めていく。また、障害者向けの就労支援を行います。障害者は被介護者や他の集落住民が持つ農業や販売業などのノウハウを少しでも吸収することで、各種事業の担い手として集落活性化に貢献することが可能になる。

フェイズ8 住民全員が作る集落

高齢者・児童・障害者関係なく、すべての住民に役割があり、すべての住民が「必要とされる」集落。高齢者は、児童や障害者の見守りを。障害者は各種事業のサポーター、あるいは主体として。子どもたちは、感謝の気持ちと笑顔を贈る事で、集落を盛り上げる。人と人との絆をとりもどし、年齢や障碍の壁を越えて交流する姿はまるで一つの家族のよう。

■ スケジュール

初年度

内容	初月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
フェイズ1 地域おこし協力隊募集	●地域おこし協力隊募集		●地域おこし協力隊赴任									
フェイズ2 見守り隊			●見守り隊開始									
フェイズ3 買物代行・宅配事業		●宅配業者へプレゼン	●宅配事業準備		●買物代行・宅配事業開始							
フェイズ4 移動スーパー				●とくし丸フランチャイズ契約		●移動スーパー事業準備				●移動スーパー事業開始		
フェイズ5 地域おこし協力隊募集Part2							●地域おこし協力隊募集				●地域おこし協力隊赴任	
フェイズ6 訪問介護	●地元福祉施設へプレゼン		●訪問介護事業準備									
フェイズ7 デイサービス	●地元福祉施設へプレゼン		●デイサービス事業準備									
フェイズ8 住民全員が創る集落												

2年目

内容	13ヶ月	14ヶ月	15ヶ月	16ヶ月	17ヶ月	18ヶ月	19ヶ月	20ヶ月	21ヶ月	22ヶ月	23ヶ月	24ヶ月
STEP1 地域おこし協力隊	●地域おこし協力隊継続											
STEP2 見守り隊	●見守り隊継続											
STEP3 買物代行・宅配事業	●買物代行・宅配事業継続											
STEP3 移動スーパー	●移動スーパー継続											
STEP4 地域おこし協力隊	●地域おこし協力隊継続											
STEP5 訪問介護	●訪問介護開始											
STEP6 デイサービス	●デイサービス開始											
STEP7 住民全員が創る集落												